

平成 30 年度第 2 回厚木市里地里山保全等促進委員会の会議録

- 1 日 時 平成 30 年 11 月 8 日（木）午前 10 時 00 分から 11 時 30 分まで
- 2 場 所 厚木市第二庁舎 11 階会議室
- 3 出席者 厚木市里地里山保全等促進委員会委員 8 人
事務局（理事、環境農政部長、環境政策課長、環境共生係長、
環境共生係副主幹） 5 人
- 4 主管課 環境政策課
- 5 案 件 （ア）委員長及び職務代理の選出について…資料 1～2
（イ）里地里山保全等の促進について …資料 3
- 6 会議録 次のとおり

事務局	<p>〔1 開会〕 －本年度第 2 回目会議開催の旨伝える。－</p>
事務局	<p>〔2 案件ア 委員長及び職務代理の選出について〕 －資料 1～2 の説明－ 委員長及び職務代理を選出</p>
委員長	<p>〔委員長あいさつ〕 里地里山はとても魅力的で、大きな役割を果たしている。農業や森林の多面的機能などいろいろ言われているが、現代の生活においては、福祉や教育の面で重要な役割を果たしている。 委員全員がこのような理念を共有して里地里山に関わっていかなければならない。特に子どもたちが関わることは、将来に目を向けたときにとっても重要であり、市内の小中学校も地域に目を向けた教育活動を展開しており、学びの場として近くに里地里山があることは素晴らしいことである。 鳥獣害やヤマビルの問題、地域で活動するプレーヤーの高齢化など、乗り越えなければならない課題はあるが、保全及び利活用を進めていきたいと考えています。 里地里山の活動は、自己実現度の高い活動である。森や木、あるいは農業と関わることは、中高年には生きがい、子どもたちには未来を約束するものである。活動する人たちはそのことを念頭に活動して欲しい。委員長として力不足の点もあると思いますが、委員の皆さんと力を合わせてやっていきたいと思っていますのでよろしくお願いします。</p>
事務局	<p>〔2 案件イ 里地里山保全等の促進について〕 －資料 3 の説明－</p>

〔2 案件イ 質問・意見等〕

(第9条 保全等地域の選定、第12条 里地里山活動協定の認定について)

委員 県条例に基づく、小鮎地域の選定については、県と市で現在、調整させてもらっている。来年度以降、協定の認定に進んでいくことになるが、団体の意向等を考慮しながら、進めてもらえればと考えている。団体との調整について、今後どのように考えているのか。

事務局 小鮎地域の選定については、今年度中の選定を予定している。市から県へ申出書を提出することになるので、現在、その案を作成し、併せて関連書類等の整備を進めている。

来年度以降、その小鮎地域で活動する2団体と荻野地域の1団体について、県条例に基づく協定の認定を予定しており、最終的には市の認定団体の全てが県の認定も受けている、という状態を目指している。

委員 県としては、市と十分連携を取りながら進めていければと考えている。

(第16条 里地里山活動協定に係る活動に対する支援について)

委員長 七沢地域について、駐車場やトイレが整備され、市民等の受け入れが可能だが、他の地域の状況はどうなっているのか。

事務局 小鮎地域について、駐車場はないが活動エリアの付近に自治会館が整備され、外トイレの使用が可能になった。

また、荻野地域については、田んぼの所有者が駐車場を提供してくれていて、その代わりに団体が草刈りなどの管理をしてあげているケースもある。

また、トイレは近くの老人ホームのものを借りたりしている。そのような場合は、各団体日頃から地域とのコミュニケーションを密にとっていて、活動の際に協力してもらっている。

委員長 仮説トイレを持っている団体はメンテナンスをどのようにしているのか。

委員 うちの団体では、トイレのメンテナンスは市の公園緑地課が行ってくれている。

委員長 活動エリアで利便性の悪いようなところは、環境政策課と公園緑地課で連携をとるようにして欲しい。

事務局 市で設置する際には、利用率なども考慮する必要がある。年間6~7回の利用頻度では難しいかもしれない。

委員 自分たちが山の中で活動する際には、簡易のトイレtentを使用している。

委員長 簡易トイレも含め、いろいろな可能性を検討してみてください。

委員	また、トイレだけでなく、女性の着替えスペースにも配慮が必要である。
事務局	検討します。
委員	厚木市には、生物多様性あつぎ戦略があり、活動するにあたり生物多様性に配慮した保全活動が行われるよう事業を進めてもらいたい。 例えば、草刈りでもバッタ等の生息環境に配慮した方法があるので、必要であれば有識者が助言できるようにするだけでも良くなるのではないか。
事務局	検討します。
委員	(第 17 条 認定団体と市民との交流の促進等について) 行政がこういったイベントに取り組むことは、市民の目が里地里山に向く、いいきっかけになるのではないか。機運が高まれば、駅や電車の中吊り、デジタルサイネージを活用し、イベントの紹介をするなど、我々企業もタイアップして取り組めればと思っている。
委員長	地域振興は、地域の人たちだけが取り組むものではなく、外の人に関わることで機運が高まるものである。実際のところ、企業の立場としてどんなコンテンツに興味を持っているのか。
委員	率直に言うと植樹祭に興味を持っている。我々も 10 年前は積極的に取り組んでいたが、適地がないなどの理由により最近はやっていない。 県などから、植樹祭のイベントではなく寄付や苗の購入を打診されたが、寄付は市民に対して目に見えるものではないので、できるなら自分たちの飲む水が豊かな森林によってもたらされていることを体験できることをやりたいと思っている。 ただ植えるだけでなく、その後の木の成長を見るツアーの開催など、継続した取り組みを視野に入れており、厚木市が積極的に取り組めば、近隣の市町村への波及効果も見込めるのではないか。我々も微力ながら協力していきたいと思っている。
委員長	飯山では花の里や蠟梅の植樹などを行っているが、さらに花木を植えるスペースはあるのか。
委員	花の里と既に蠟梅を植えたエリアの間は一部藪になっていて、そこをきれいにして、さらに蠟梅を植えたいと思っているが、会員も高齢化しなかなか進んでいないのが現状である。
委員長	先ほどの企業とのタイアップも検討してみてもどうか。
委員	いろいろ問題もあり、桜まつりの開催自体ができなくなる懸念も出てきており、飯山全体の未来について検討していかなければならない時期にきている。

委員長	子どもたちへの環境教育について、農協では食育を中心に行っていると思うが環境保全、自然と親しむという観点での取り組みは推進できないか。
委員	農業体験という切り口でいうと田んぼでの自然観察は可能である。山林となると、交通手段や安全面で少し怖いなど思っている。草刈りなどは刃物を使用するので注意が必要である。
委員	情報提供だが、秦野市では毎年植樹祭を実施していて、森林組合などと一緒に取り組んでいる。そういうのも参考にしてみてもいい。
委員長	荻野でも山に桜を植える活動をしているが、植えることよりメンテナンスが重要である。
委員	植樹祭では樹種は何を植えているのか。
委員	広葉樹である。
委員長	いろいろな意見が出たがこれらの実現の可能性についてどのように考えているか。
事務局	先ほどの植樹祭などのイベント開催について、関係者と調整していきたいと考えている。
委員	(その他 全般に関わること) 認定団体の交流会については、ぜひ開催して欲しいと思う。課題や保全方法の共有、また活動を評価することも重要である。
委員長	各団体の会員の高齢化が進む現状について、どう考えているか。
委員	我々の団体では、準会員向けにアンケートを実施したところ、農業体験に参加してみたいという声が非常に多かった。農地や里地里山を守っていくには関わる人が必要だが、広報の仕方によってはまだまだ需要はあると考えている。
委員長	活動のイニシアチブは地元が握るべきではあるが、新しい力、アイデアは外から求めてもいいし、そういうものを受け入れていくことが重要である。賛助会員のようなかたちでの活動への参加例はあるのか。
委員	我々の団体でも高齢化の問題を抱えているが、昨年から登録した親子を対象に自然観察会を定期的実施している。2年目を迎えるが、2年目になると親子共に熱心に関わってくれている。働きかけを続けていると少しずつ関心を持ってくれるようになる、と私自身は感じている。
委員	我々の団体も子どもたちに関心を持ってもらえるような活動を心掛けている。

委員長	外部の人の受け入れについてどう感じているのか。
委員	他の団体では、企業や大学の参加の話をよく聞くが、我々の団体はまだそういった連携はできていない。機会があれば協力をお願いしたいと考えている。
委員	県としては、団体の活動に企業や大学、県民の参加を促進していて、来年度は、七沢で子ども里地里山体験学校を実施する予定である。 イベントへの参加だけでなく、それをきっかけに継続して団体の活動にも協力してもらえるように結び付けていきたいと考えている。
委員長	大学には地域と関わりたいと思っている学生がたくさんいる。先生は忙しくて外に出ていけない現状もあるが、ぜひ取り組んでいてもらいたい。
事務局	認定団体の意見交換会については、今後日程調整を行っていく。 先ほど話があったが、県の子ども里地里山体験学校を来年度、七沢で開催する予定である。子どもたちを巻き込んでいかないと、将来誰も里地里山に関心を持たなくなってしまう恐れがあり、この委員会を中心に、市民が里地里山に関心を持つ、大きな流れをつくっていかれると思っている。
委員	〔3 その他〕 委員から情報提供等。
事務局	〔4 閉会〕